



連載

ビブリア・トーク
—私のオズメー—

… 須川賢洋 (新潟大学)

サイバー・インテリジェンス

伊東 寛 著

祥伝社 (2015), 216p., 780 円 + 税, ISBN : 978-4396114343



本書は、経済産業省サイバーセキュリティ・情報化審議官による著である。著者の伊東氏は陸上自衛隊システム防御隊の初代隊長であり、この本の執筆時は(株)ラックのナショナルセキュリティ研究所所長であった。

このような経歴とこの本のタイトルの中に使われている「インテリジェンス」という言葉だけしか見ないと、本書の内容が軍事色の強いもののように思われるかもしれないが、実のところはまったくの逆で、民間企業や個人がさらされている脅威について書いてある。それは、最初の第1章がいきなり『サイバー戦に巻き込まれる企業』として書かれていることからよく分かる。また、個人の情報がどのように見られているかについても、スノーデン事件を引き合いに出し、丸々1章を割いて解説している。

ルールの変更が与えた影響

伊東氏が本書のみならずほかの著書や講演などで繰り返し述べていることの1つに、「サイバー空間においては従来の情報戦のルールがすっかり変わってしまった」ということがある。国家情報機関同士や軍隊同士が互いに情報戦を繰り広げるなんてことは大昔からやっていることで何も目新しいことではない。しかし、ネットワーク社会の発達は、国家が一民間企業に対してサイバー攻撃やサイバー・インテリジェンスを行うという従来には見られなかったスタイルの情報戦が行われるようになってしまった。

このようなことを行う国が存在するのであるから、

当然であるが攻撃を受ける側の国も既存のルールで対処しては埒が明かない。『政府機関が民間から盗むな!』とアメリカは怒り、それに対抗するためにアメリカは「対処ルールを変えた」のだと伊東氏は述べている。つまり、伊東氏はその上で「さあ日本はどうするのですか?」と警告しているのだと読み手は捉えないとならない。

身近な脅威には個人でも対策可能

このように現代社会においては一企業や個人で高度な攻撃者に対抗しなければならない。もちろん伊東氏もオールジャパンで国が一丸となって対処することを強く進言している。

しかしながら、これらの攻撃は一人ひとりのちょっとした不注意につけ込んで行われることや、逆に個人のレベルでも十分に気を付けることによつてかなりの情報流出の防止効果があることもまた、本書の至るところに書いてある。たとえば、『他の企業より少しだけ上の防御をしておく』『極端に防御を強力にするのは……ハッカー達を引き寄せてしまう』というのも非常に現実的なアドバイスである。また、ダライ・ラマの亡命先事務所のパソコンがスパイウェアによって知らないうちに盗聴・盗撮されていた事例が紹介されている。このスパイウェアはメールに添付して送り込まれたらしい。今であれば、スマホのアプリに紛れ込ませるだろう。だからこそ、軽い気持ちで得体の知れないアプリやソフトをインストールしてはいけないのである。

インテリジェンスの基本は日々の研究資料の分析にも有効

さらに本書には、「インテリジェンスの基本とは何か?」、「情報収集・分析はどうやるのか?」ということについても多くが書かれているが、これが面白いくらいに研究資料の分析や論文・レポートの書き方に一致する。それ故、これから卒論や修論を書く学生諸君には特に読んでもらいたい。そのうちのいくつか抜き出してみたい。

『マスコミなどによって流布された情報を「本当だろうか」と疑うのがインテリジェンスの基本である。』

『サマリー（要約）だけしか読まないほとんどの人々は…（中略）…と思い込む…（中略）…そしていつの間にかこの情報が一人歩きするのである。』

『インテリジェンスは、八割くらいは一般情報、公刊情報で行えるとよくいう。…（中略）…重要なものは、その公刊情報の中から本物と偽物を見分けることだ。これが難しい。』

『新聞の一面にスクープ的に出た情報は間違っていることも多い。』

『その後のフォローも重要だ。』
いかがであろう？

耳の長いウサギであらう!

ほかにも、サイバー空間と国際法の関係や、世間で話題となったさまざまなサイバー事件における氏独自の分析など他誌とは一線を画する記述が多くあるのだが、残念ながらそれを紹介するにはスペースが足りなくなってきた。

本書の締め言葉をもって、この書評もまた締めくくりたい。『か弱いウサギが爪を研ぐのは、賢明とはいえない。ウサギの最大の武器は、長い耳なのである。』我々は、耳の短い室内飼いのペットウサギにならないように、いろいろな情報に日々聞き耳を立てておきたい。それこそが現代の情報社会を安全に生きるために最も必要なことであるのだから。

(2018年4月2日受付)

須川賢洋（正会員） masahiro@jura.niigata-u.ac.jp

新潟大学法学部助教。修士（法学）。専門：サイバー法。コンピュータ犯罪、デジタル知的財産、情報セキュリティ制度など先端技術と法律の関係を中心に研究。本会「電子化知的財産と社会基盤（EIP）研究会」運営委員（前幹事）。

